

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Pigmentary traits, modalities of sun reaction, history of sunburns, and melanocytic nevi as risk factors for cutaneous malignant melanoma in Italian population: Results of a collaborative case-control study	
	論文の日本語タイトル	イタリア人における皮膚メラノーマの危険因子としての皮膚色、日光への反応様態、サンバーン歴および色素細胞母斑：共同症例対照研究の結果	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	MM-CQ2-4	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（IV）	
	Pubmed ID	10870052	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	88	
	号	12	
	ページ	2703-10	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2000 Jun	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Naldi L	Clinica Dermatologica, Universita degli Studi di Milano-Bicocca, Italy
	その他著者 1	Imberti GL	同上
	その他著者 2	Parazzini F	Unita di Epidemiologia analitica, Istituto di Ricerche Farmacologiche M, Italy
	その他著者 3	Gallus S	Laboratorio di Epidemiologia Generale, Istituto di Ricerche Farmacologiche M, Italy

	その他著者 4	La Vecchia C	不明
	その他著者 5	The Oncology Cooperative Group of the Italian Group for Epidemiologic Research in Dermatology	
	その他著者 6		

一次研究の 8 項目	目的	イタリア人において皮膚色、日光への反応、母斑などがメラノーマ発生の危険因子であるか否かを検討する	
	研究デザイン	症例対照研究	
	セッティング	イタリア全土に及ぶ 27 施設	
	対象者	メラノーマ患者 542 人、対照 538 人	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （2）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （3）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （22）	
	介入（要因曝露）	質問票への回答と皮膚科医による母斑（径 2mm 以上 6mm 以下と 6mm 超に分ける）の個数の調査	
	エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント	区分
	1	毛髪の色、眼の色、皮膚の色、freckle の有無と寡多とメラノーマの関係	1.主要 2.副次 3.その他（1）
	2	日光暴露とメラノーマの関係	1.主要 2.副次 3.その他（1）
	3	母斑の個数とメラノーマとの関係	1.主要 2.副次 3.その他（1）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	1) 多変量解析の結果、眼の色、皮膚の色、sunburn をおこしやすい、15 歳以前の sunburn 歴、日光黒子の存在、がメラノーマ発生と有意に相関した。 2) 径 2mm 以上の母斑の個数が多いとメラノーマ発生のリスクが高まった。径 6mm 超の母斑の個数は、メラノーマ発生の独立した危険因子といえた。	
	結論	他の白人におけると同様に、イタリア人においても皮膚の色、日光暴露、母斑の個数がメラノーマ発生の危険因子であることが示された。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	斎田俊明	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（IV） イタリア人においても、他の白人の場合と同様に、母斑の個数などがメラノーマ発生の危険因子であることを明らかにしたレベルの高い論文。	

